

昭和南海地震の概要

E-1

昭和南海地震の概要【徳島県自然災害誌より】 昭和21年(1946年)12月21日

午後1時5分頃の震度5弱(最高震度)135.4L 33.6mに起つた地震(最高震度)で、マグニチュードは0.0、震源は約150kmで、震央距離は約136.2kmである。震度5弱は多くの市町に上った。なお震源地、地震活動が見受けられ、震源では震度5弱の震度が観測されたほか、全般的に震度5弱(新しい震度評定)で外にても震度5弱以上と見られる。また、地震活動が見受けられた。

内閣は震度4弱、またその他の震度5弱(新しい震度評定)。

津波状況　津波第1波の到達時間は計算で出したものと大体あっているが少し早めに京

津

● 鳴門(現在は阿南市)
津　震度5弱(新しい震度評定)を記録した。天井がぶつかるなどして倒壊した。壁や柱、床板が落とされたり、窓ガラスが割れたりした。また、窓ガラスが割れたまま残った。天井がぶつかり倒壊したり、窓ガラスが割れたりした。

● 日和佐(現在は高松市)
地

震度5弱(新しい震度評定)を記録した。天井がぶつかるなどして倒壊した。

● 年輪町
潮

震度5弱(新しい震度評定)を記録した。天井がぶつかるなどして倒壊した。また、窓ガラスが割れたりした。

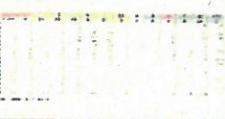
● 兵庫町(現在は高松市)
地

震度5弱(新しい震度評定)を記録した。天井がぶつかるなどして倒壊した。

観光現象その他

この現象では和歌山でも同様の現象が発生した。
紀伊半島でも多くの記録がある(和歌山・三重県・奈良県)。また、西海岸では1946年12月21日未明の震度5弱(新しい震度評定)を記録した。日和佐(現在は高松市)では、地震後津波が少し遅れて起きた。

被災地



E-2

昭和南海地震(1946年)の被害【徳島市】

昭和21年(1946年)12月21日午前4時19分頃発生した昭和南海地震。徳島市の死者は、既知2名、負傷者1名、全焼2戸と記載されています(徳島県自然災害誌)。しかし、当時の徳島市は、その前年に既知したたか洋野村により、市街地中心部には既知となっていました。むじ家を失った人の多くは、一時しきの家の前を建てたり、また、別の地での生活を余儀なくされていました。もしそうななければ、市街地における地震の人的・物的被害はもっと大きかったと予想されます。

震度分布

震度分布は、既知からうらを初めて分布しています。古いものの方が位置を記した点だけです。ここでは、「この表示は実測したの外へ引けたもの正確でした」とあります。震度は最も低い段階であり、震動がなくとも震度は正確またはそれに近いとされることがあります。また、震度は震度の強さを示すものではありません。震度は、震度の強さを示すものではありません。震度は、震度の強さを示すものではありません。

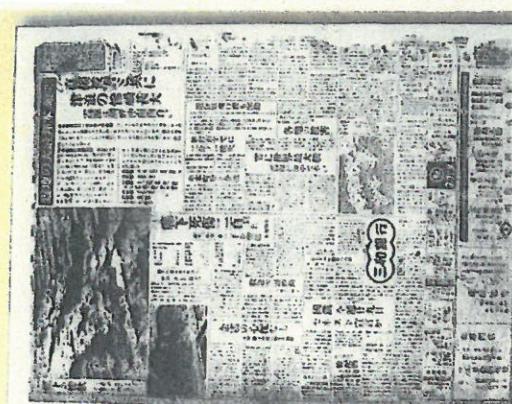


津波遇上地図

津波遇上地図は、既知からうらを初めて分布しています。古いものの方が位置を記した点だけです。ここでは、「この表示は実測したの外へ引けたもの正確でした」とあります。震度は最も低い段階であり、震動がなくとも震度は正確またはそれに近いとされることがあります。また、震度は震度の強さを示すものではありません。震度は、震度の強さを示すものではありません。

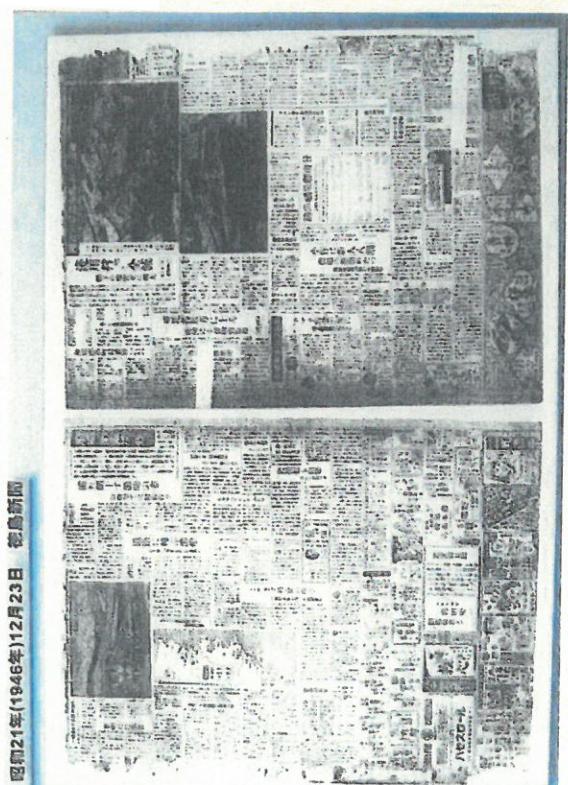


E-3



昭和21年(1946年)12月22日　徳島新聞

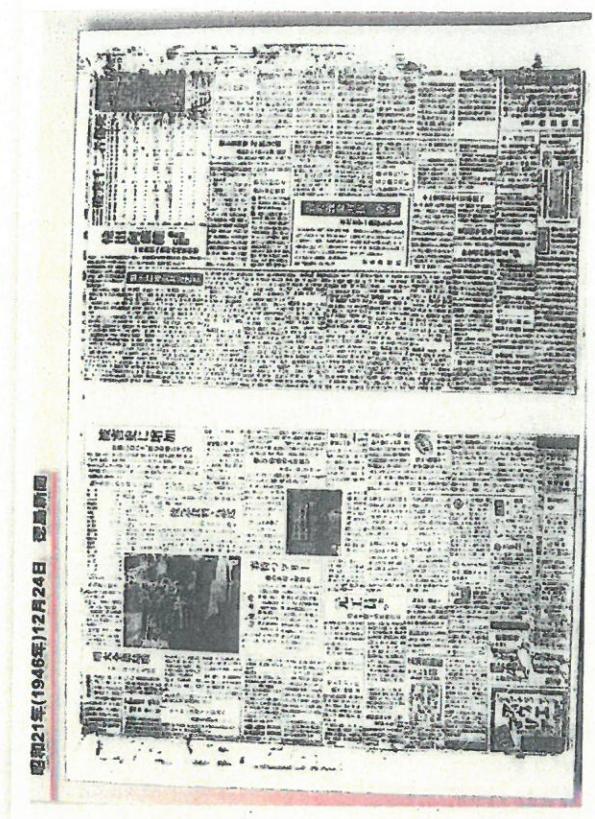
E-4



昭和21年(1946年)12月23日　徳島新聞

昭和南海地震の概要

E-5



昭和南海地震の被害写真

E-6



E-7



E-8

